



ショートコメント

★★★★

Data 2021-140

監督：ドゥニ・ヴィルヌーヴ

脚本：ジョン・スペイツ/ド

ウニ・ヴィルヌーヴ/

エリック・ロス

原作：フランク・ハーバート

『デューン 砂の惑

星』

出演：ティモシー・シャラメ

DUNE/デューン 砂の惑星

2021年/アメリカ映画

配給：ワーナー・ブラザーズ映画/155分

2021(令和2)年10月23日鑑賞

TOHO シネマズ西宮

👁️👁️ みどころ

ハリウッドには、『スターウォーズ』をはじめ、「SFもの」の大作、傑作が多い。また『ロード・オブ・ザ・リング』のように長編小説を映画化したシリーズも多い。しかして、『猿の惑星』ならぬ『砂の惑星』とは？

原作は、“映像化不可能”と言われた全6作から成るSF小説の古典的名作だが、ドゥニ・ヴィルヌーヴ監督はそれをいかに映像に？まずはそこから注目！『アラビアのロレンス』（62年）で見た砂漠は美しかったが、空間移動に必要な「香料」が大量にとれるため重要な惑星になっている「砂の惑星」の砂漠は？原住民たるフremen族の生態は？

シリーズ第2作、第3作を見据えた基礎勉強をしっかりと！

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

◆私は『猿の惑星』シリーズも、『スターウォーズ』シリーズもよく知っているが、寡聞にして、『DUNE/デューン 砂の惑星』は知らなかった。同作はイギリスのJ. R. R. トールキンの「指輪物語」、それを映画化した『ロード・オブ・ザ・リング』シリーズと同じように、フランク・ハーバートが書いた米SF小説の古典的名作らしい。

『DUNE』シリーズは、①『デューン/砂の惑星』（65年）、②『デューン/砂漠の救世主』（69年）、③『デューン/砂丘の子供たち』（76年）、④『デューン/砂漠の神皇帝』（81年）、⑤『デューン/砂漠の異端者』（84年）、⑥『DUNE/デューン 砂丘の大聖堂』（85年）、全6作。そんな大作の第一作となれば、これは必見。

もともと、2021年10月15日、日経新聞「シネマ万華鏡」で、春日太一氏（時代劇研究家）は“正直なところ、「VFXを駆使したSF映画」は苦手だ。人間の熱気が損なわれる気がするからだ。”、“そのため、上映時間が150分を超えるSF映画である本作は「まず合わないだろう」と思っていた。”と書いている。私も全く同感だったので鑑賞を躊躇していたが、続いて“それは誤りだった。結論から言えば、魅了された。”と書いてあったため、映画館へ行くことに。

◆砂漠を舞台にした名作は多い。その断トツはデビッド・リーチ監督、ピーター・オトゥール主演『アラビアのロレンス』(62年)だが、本作にみる「DUNE (デューン) = 砂の惑星」の砂漠も美しい。時代設定を約一万年後の10190年とした本作で、人類は宇宙をどのように支配し、地球はどうなっているの？そして、時の権力者である宇宙帝国の皇帝は、この「砂の惑星」をどう活用しているの？また、「砂の惑星」の先住民たるフレメンはいかに虐げられているの？それはパンフレットにある「THE PEOPLE OF DUNE」を参照しながら勉強しなければいけないので、興味と気力のある人はしっかりと。

◆私はここ数年、中国時代劇にハマっている。秦の始皇帝時代のそれも面白いが、戦国春秋時代のそれは、六国の合従連衡ぶり、つまり、その権謀術策の展開が面白い。近時見た『鬼谷子—聖なる謀—』は特にそうだった。「砂の惑星」が皇帝にとって大切なのは、この星では空間移動に必要な「香料」が大量にとれるためだ。今「砂の惑星」を支配し、香料の利権を独り占めしているのは領主のハルコンネン男爵(ステラン・スカルスガルド)だが、皇帝は新たにレト・アトレイデス公爵(オスカー・アイザック)を新領主に任命した。それは一体なぜ？そして、そこから始まる想定外のドラマとは？

これは偶然？それとも、中国の戦国春秋時代も現在も一万年後も変わらない人間(権力者)たちの欲にまみれた権謀術策のため？本作では、VFXを駆使したSF映画の面白さと共に、そんな人間ドラマをしっかりと楽しみたい。もっとも『ロード・オブ・ザ・リング』と同じように、この後続くすべての作品を観るかどうかは別問題だが・・・

◆近時新聞紙上には「DX」という言葉がよく登場する。これを平気で「デラックス」と読むじいさん、ばあさんもいるが、これは「デジタル・トランスフォーメーション」と読む。しかし、その意味をホントにわかっている人はどれくらい？それと同じように(?)、近時は「Z世代」なる言葉が大はやりだが、その意味は？

しかして、本作の主人公は、その「Z世代」に属するアトレイデス家の後継者ポール(ティモシー・シャラメ)だ。幼い頃から武術を習い、多くの知識を学び、また母親から「他者を操る声」の修行も受けているポールは、夢を通して「未来を視る」能力を持っているらしい。なるほど、なるほど。そんな彼は父親のレト公爵と共に惑星アラキスに移住したが、そこでハルコンネン家によるアトレイデス家への襲撃を体験することに。それはそれとして受け入れざるを得なかったが、時折彼の夢の中に現れる女性一体誰？彼はなぜそんな夢をみるの？彼には何らかの出自の秘密が？ひょっとして、彼はフレメンの末裔？

そんなこんな疑問を持ったまま『DUNE デューン』の第1作は終わるが、さて第2作は？第3作は？シリーズ第2作、第3作を見据えた基礎勉強をしっかりと！

2021(令和3)年10月29日記